

# 8 学校を探検してみよう！

校内の防災設備や、災害時の避難所を想定して備えられている備蓄品などについて「探検」形式で探し出していきます。



校内の防災施設や災害時のための備蓄品などを知り、学校が避難所として機能することを学びます。

低/高 演習 屋内 45分

小学校低学年、小学校高学年

時間軸

## 実施内容

対象人数★5～40人(1グループ5～6人)

### 1 導入・事前説明 (10分) →映像9

- 大きな災害が発生したときに、学校にある体育館などが、住む家を失った人たちの一時的な生活の場所（避難所）になるということを知ってもらいます。映像9（避難所の様子）を見せるとイメージしやすいでしょう。
- また、学校には災害時に活用できるものがたくさんあること、これからそれを実際にさがしていくことと、その方法を説明します。何をさがせばいいのかは次のとおりです。

#### 【さがす場所・施設・設備などの例】

- 防災倉庫（災害が起きたときに使うものを置いておくところ）
- 消火のための設備(消火器、屋内消火栓（消火用の水が出る場所）など）
- 火災を発見するための設備（自動火災報知設備の感知機、発信機、受信機）
- 避難のための設備（避難口、避難階段、防火戸、防火シャッター、救助袋など）

- 探検を始めるための準備をします。
  - ・必要に応じてグループ分けをします。
  - ・学校の図面を渡すなど、チェックできるものを渡します。

- 探検をする上での注意事項を説明します。
  - ・他の授業の妨げにならないようにすること
  - ・屋上など、行ってはいけない場所の確認と徹底
  - ・校外には出ない など

※校内は広い場合、探検する場所を限定したり、他の授業をしているクラスへの配慮が必要です。



実際の避難所の様子  
(写真提供：人と防災未来センター（神戸市）)



校内の防災施設や災害時に活用できるものを探します

### 2 探検開始 (25分) →資料8-1

- 集合時間を決めて、グループごとに校内を探検します。発見したものは、校内の図面やワークシート（資料8-1）に書き込んでいきます。
- 屋内消火栓や避難のための設備など、子どもだけでは発見しにくいものは、指導者がその場所に立ってヒントを与えてもよいでしょう。また、あらかじめ「ここに何がある」という貼り紙をしておく方法もあります。  
※校内は広い場合、探検する場所を限定したり、他の授業をしているクラスへの配慮が必要です。



探検しながら図面などに書き込みます

### 3 発表・まとめ (10分) →資料8-2

- 各グループから、発見したものを発表してもらいます。黒板に校内の図面を拡大コピーして貼り、発見したものや場所を記入していてもよいでしょう。各グループに記入させてもかまいません。
- 子どもたちが発見した設備などについて、資料8-2を使ってそれぞれの用途や役割を説明し、どんなところにあるのか、どんなときに使うのかを説明します。
- 子どもたちが見つけたもののなかで、防災設備ではないが災害時に役立つようなものがあれば書き出してみます。



発見したものをグループごとに発表

### ● 指導ポイント

学校ごとに設備が違うので、事前に調べておく必要があります。学校にある設備は教職員の方は知っておく必要がありますので、消防署の方の協力を得るなどして、この機会に調べておきましょう。

### ● 自主防災組織の関わり方

設備の目的や使い方について説明をお願いします。

### ● 準備するもの(目安)

準備品	数	備考
<input type="checkbox"/> 映像「避難所の様子」	1	映像9
<input type="checkbox"/> 資料「校内防災探検」	人数分	資料8-1（配付用）
<input type="checkbox"/> 資料「校内防災探検」（指導者用）	人数分	資料8-2（指導者用）
<input type="checkbox"/> 校内の図面	人数分	
<input type="checkbox"/> パソコン	1	必要に応じて準備
<input type="checkbox"/> プロジェクター	1	必要に応じて準備
<input type="checkbox"/> スクリーン	1	必要に応じて準備
<input type="checkbox"/> スピーカー	1	必要に応じて準備
その他：学校には、消防設備が書かれた図面があります。		

### ● 家庭への持ち帰り

校内防災探検をした結果を書いたワークシート（資料8-1）を家に持ち帰り、このメニューで学習した避難所としての学校の機能を保護者の方にも話してみるよう指導してください。

### ● このメニューに関する+αの知識

**避難所**▶ 災害により住む家を失った人たちが、一定の期間、避難生活をする場所です。多くの場合、小中学校や公民館など公共的な施設が指定されています。

**一時避難場所**▶ 火災などから一時的に身を守るために避難する場所で、地域の集合場所的な役割もあります。学校の校庭、公園や神社など比較的小規模な空き地がこれにあたります。一時避難場所が危険になった時は、さらに規模の大きな広域避難場所に避難することになります。

**広域避難場所**▶ 地震などによる火災が拡大して地域全体が危険になったときに避難する場所で、火から放射される熱を避けるためにはおおむね10ヘクタール以上が必要とされています。大規模な公園や団地、大学の構内などが指定されています。

**このメニューに関する震災や災害での教訓**▶ 大震災や火山の噴火のときなどでは、避難所で多くの苦勞やたくさんの教訓が生まれたことは言うまでもありません。各学校に備えられている食糧、毛布、給水機能、仮設トイレなどは、すべてこのような教訓から設置されたものです。それらの存在を知ることはもちろんですが、災害での大切な教訓を、いざというときに有効に使えるように、必要な知識・技術を身につけておきましょう。

### ● ひと工夫

見つけるものを「消火器」に限定し、何個見つけられるかを班ごとに競う方法もあります。

### ● 子どもたちの声

- ・学校にある消火器の数が分かりました。
- ・給食室に消火器が2本ありました。
- ・地震が起きたとき「米、ビスケット、缶詰、水」があるなんてすごいな。